地域ボランティアプログラム②
みなみおおさまカフェプログラム

「事前学習Ⅱ」報告

2018/06/24

みなみおおさまカフェプログラム　事前学習Ⅱ

6月24日（日）、本センター独自のボランティア活動の１つである地域ボランティアプログラム②「みなみおおさまカフェプログラム」の事前学習Ⅱを南大沢キャンパス91年館多目的ホールにて、実施しました。

今年度新たに始まった本プログラムには、12名の学生が参加しています。事前学習Ⅱには、ほぼ全員が参加し、「みなみおおさまカフェ」の始まりやこれから活動を始めるうえで必要となる知識などを講師の方々から学びました。

講師は、本学の人文学部人間社会学科教授である和気純子先生、みなみおおさまカフェのコアメンバーで、本学人文科学研究科博士課程の篠崎ひかるさん、本学の卒業生で全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センターの岸本尚大さん、介護老人保健施設あるふぁ国立の間嶋健さんにご担当いただきました。

・地域の特性や社会課題の理解

まず初めに、「首都大があるこの南大沢地域には、どのような特性や社会的課題があるのか」について、和気先生にお話をしていただきました。現在の日本には、「単身世帯の増加」や「貧困格差」「孤立」など、行政のみでは対応できない様々な社会的課題があり、地域の多様な主体の参加と協働が不可欠となっています。さらに、一人暮らし高齢者の意識調査からは「地域との関わりが薄い」と感じている高齢者が非常に多いことが分かっています。このような状況を解決すべく、「地域包括ケア」のしくみが整備されてきたそうです。

「みなみおおさまカフェ」では、地域包括支援センターをはじめ、多くの地域の方々と協力して運営をしてます。これも「地域の課題把握」から「地域ケア会議」へとつなげ、「対応策」を考え、実行していく、地域包括ケアシステムのプロセスそのものであるといえます。

日頃、福祉を学んでいる学生でないと聞きなれない言葉も多く出てきましたが、参加学生たちは、これから取り組む「みなみおおさまカフェ」の背景を知り、改めて活動の意義への理解を深めていました。

・学生による運営

「みなみおおさまカフェ」は、年間プログラムの設計から、コーヒー作りまで、学生が主体的に関わり、運営しています。コアメンバーである篠崎さんからは、カフェ当日の学生の役割や活動内容について、お話をしていただきました。

これまでみなみおおさまカフェに参加したことのない学生も、活動の様子を写した写真を見て、地域の方々と学生が交流している楽しそうな雰囲気を感じ取っていました。

・コミュニティカフェとは何か

今年の３月まで本学の修士課程に在籍し、みなみおおさまカフェの活動をされていた岸本さんには、様々な地域の事例を通して、コミュニティカフェとは何かについてお話いただきました。

みなみおおさまカフェ運営の経験者という視点を通した専門的なお話は、学生たちの今後の活動に直結する学びとなったはずです。

・目標の設定と宣言

講師の方々のお話を聞いた後、事前学習のまとめとして、これからの活動にあたって個人の目標を設定し、発表しました。

以下が参加学生の個人目標の一部です。

・「たくさんの人とコミュニケーションをとって楽しいカフェづくりに貢献する」

・「多くの人とのかかわりを通して気づき、学ぶことを大切にして寄り添っていきたい」

・「自分を語れる場所づくり　つながりを感じる地域づくり」

・「自分ができる、地域のサポートの仕方を見つける」

・「これからの活動の中で、高齢者ともっと交流したい」

・「異世代の方とのコミュニケーションをうまくできるようにしたい」

みなみおおさまカフェの活動に向けて、具体的な目標ができ、より一層活動への意欲が高まっていました。

講師の和気純子先生

みなみおおさまカフェの背景となる「多世代交流による地域包括ケアの構築～南大沢の地域づくり」や「地域アセスメントから分かった南大沢地域の特徴や社会課題」について、丁寧にお話をしていただきました。

講師の岸本尚大さん

首都大大学院・みなみおおさまカフェOBとして、コミュニティカフェの意義を分かりやすく説明してくださいました。

高齢者とのコミュニケーション

間嶋さんからは、高齢者とのコミュニケーションの方法や車いすの使い方について教えていただきました。３人１組のグループになり、車いすに乗る人と介助する人に役割を分けて、実践しました。

車いすに乗った学生は、「急に動き出したり、段差があったりすると恐怖や不安を感じる」と話していました。